



第8号

港北区体育指導委員
連絡協議会広報紙

活の生体指

KOHOKU

No.8

平成11年3月18日発行

発行者
港北区体育指導員連絡協議会

編集
港北区体指協広報委員会

事務局
港北区大豆戸町26-1
港北区役所地域振興課内

☎ 045-540-2240

FAX 045-540-2245

▶ 本
部
前
で
の
ス
タ
ー
ト
直
前
の
光
景



◀ 第
一
中
継
所
で
の
タ
スキ
の
中
継

昭和60年度から始まった港北駅伝大会も、平成10年度で第14回大会を迎えることとなりました。

平成11年1月17日（日）鶴見川河川敷コースにおいて、第14回港北駅伝大会が、港北区役所・港北区体育指導委員連絡協議会・港北区体育協会・港北区中学校体育連盟の主催で実施されました。昨年の第13回大会が積雪により中止となったため天候が心配されましたが、今年は晴天に恵まれ、大会当日は区内在住・在勤・在学者で編成された計62チーム、423名の選手が6部門に分かれて参加しました。

当日は朝7時30分からチーム受付を開始、8時30分に開会を宣告し、部門別に9時または11時にスタートすると、参加選手が寒風を吹き飛ばすような熱戦を繰り広げ、盛況のうちに大会を終了することができました。

◆港北区駅伝大会で優勝して

僕は1月17日に行われた港北区駅伝大会で連合町内会の部に綱島連合チームの第七走者として出場させていただきました。

結果はなんと見事に優勝。大会が始まる前は「5位以

内だったらいいな。」なんぞと思っておりましたので、これには本当にびっくりしました。

やっぱり優勝するのは気分がイイもので、ゴール直後は綱島連合の皆さん（某宝石・時計店の社長さんは特に）大喜びでした。

僕は高校で陸上部に所属しているのですが、部員が少なすぎて駅伝のチームが組めないという非常に惨めな状態でした。

しかし、「どうしても駅伝に出場したい!!」と思い、この駅伝に参加させていただきました。

希望通り駅伝を走ることができ、しかも優勝までできてこれほど嬉しいことはありません。

このような素晴らしい名誉を勝ち取ることができたのは全員のチームワークと皆さんの応援のおかげだと思っています。寒い中応援して下さいった皆さん本当にありがとうございました。

できることなら是非来年もこの大会に出場し、この感動をもう一度!!と、思っています。

（綱島連合 齋藤肇）

▼第14回港北駅伝大成績

	連合町内会の部 (17チーム)	一般男子の部 (14チーム)	高校男子の部 (4チーム)	一般高校女子の部 (1チーム)	中学校男子の部 (18チーム)	中学校女子の部 (8チーム)
距離	9区間・27km	6区間・27km	6区間・27km	6区間・27km	6区間・27km	6区間・18km
優勝	綱島連合チーム 1° 50' 08"	ジュンペイ ドリームズ 1° 36' 36"	武相高校 1° 34' 49"	三菱自販 2° 10' 37"	樽町中学校陸上部A 1° 43' 06"	大綱中学校陸上部 1° 16' 48"
2位	太尾連合A 1° 50' 22"	三菱自販A 1° 45' 31"	慶応義塾高等学校 長距離 1° 35' 48"	-	大綱中学校陸上部B 1° 43' 17"	樽町中学校陸上部A 1° 16' 53"
3位	篠原A 1° 51' 14"	松下通信AVSD 1° 45' 46"	慶応義塾高等学校 競走部 1° 39' 45"	-	大綱中学校陸上部A 1° 43' 35"	日吉台中学校バスケ部 「1年女子I」 1° 22' 29"
4位	新羽さわやか 1° 51' 22"	富士食品工業 Aチーム 1° 50' 39"	日本大学高等学校 陸上部 1° 45' 31"	-	慶応義塾普通部 陸上競技部B 1° 47' 39"	日吉台中学校F-A 1° 22' 47"
5位	日吉 1° 51' 55"	横浜市水道局 北部走友会 1° 51' 42"	-	-	慶応義塾普通部 陸上競技部A 1° 48' 30"	日吉台中学校F-B 1° 24' 02"
6位	城郷連合町会 1° 52' 04"	三菱自販B 1° 52' 14"	-	-	日本大学中学校 陸上部A 1° 49' 55"	日吉台中学校バスケ部 「1年女子のみんな」 1° 25' 55"

● 優勝地区の苦心談

我チームは、ハラハラドキドキ最後の最後まで優勝を確信する事ができない手に汗を握るレースであった。レース迄を振り返る。まず選手選抜は10月の町会対抗の網島フェスティバルの持久走から始まる。子どもたちは多く参加してくれるから比較的スムーズに決まるが悩みは大人である。関係者に声をかけるものの、すんなりとはいかない。「タスキをつなげてくれれば」「あなたなら大丈夫」と頼み込み、12月に試走会を行なう。ところが風邪で体調を崩す人もいるなど当日顔を見る迄は安心できなかった。光島区長から優勝杯を受け取る笑顔の子どもたちを見てやっと胸をなでおろすことが出来た。

(網島監督 吉田道昭)



▲仮橋手前の第2中継所にて

● 駅伝大会の役員を経験して

朝から曇ひとつない快晴の中、役員は7時集合。テント組立や立看板、掲示板等手際よく準備がすみ我々3人は折り返しのC地点へ、天気はいいものの川沿いの強い風は冷たく、選手が来るまではジョギングしたり体操したり、とにかく体を動かしていないと寒い。いよいよ一般の部の選手が来る。選手一人ひとりに激励の声をかけるが皆真剣で無言のまま走り去る。連合の部でも勿論真剣で無表情の人もいるが笑顔で手を振って行く人や「俺なんか走るはずじゃなかったんだよな」と言いわけして顔をゆがめ乍らも笑顔で折り返えす人……。様々な折り返えし風景であった。

(師岡地区 赤城久人)

● 港北区民マラソンに役員参加して

平成10年12月20日(日)、第28回区民マラソン大会が、鶴見川河川敷で開催されました。朝のうち強い風のため設営したテントがあおられて苦慮しました。担当は受付で、参加者をチェックしてゼッケン等を渡します。このたびの私の関心は各部(高校生女子の部、一般女子の部、他)が同じ距離を同時にスタートし、各部のランナーが入りまじって次々とゴールインする中、ランナーとタイムをどのように照合するのか、手順や方法に興味がありました。観察して理解できた範囲ではゴールに向うランナーを手前15m程の地点でゼッケンナンバーを大声で読みあげる係、そのナンバーを確認して筆記する係、そしてゴールインで計測器にインプットするタイム係がいて手ぎわよく処理していたのには感心しました。ファミリーの部では互に励まし合い力走する光景があら

● 「港北駅伝大会に優勝して」

一般男子チームの中で見事優勝の栄冠に輝いたのは、「ジュンペイドリームズ」チームでした。このチームは慶応義塾大学競走部員のチームで、卒業生を送る記念に先輩の名前をもじったチーム名で参加しました。

同チーム主将の駒井敬之さんによれば、みんな陸上の選手なので毎日走っているけれども、もともと専門は800や1500Mなので結構長く感じたとのことですが、結果は独走で優勝。「陸上競技は、練習した結果がタイムではっきり判る点が好きだと思いますし、レースは競争で追い抜く面白さもあります。今回の優勝で、先輩の卒業に花を添えることが出来て良かったです」と感想を語っていただきました。

● 「港北駅伝大会の反省について」

今回の港北駅伝大会は特集記事のとおり、盛大かつ無事故で終了しましたが、大会終了から一か月を経た2月19日(金)に反省会議が開催され、連合各地区の代表者及び区陸上協会幹事の間で次の駅伝大会をより良い大会にするため活発な討議が交わされました。反省会議では2時間に渡りさまざまな意見が出ましたので、主な意見についてここに記すこととします。

まず競技運営面では連合の部で当日の選手変更が非常に多い点が指摘されました。残念な指摘ではありましたが、駅伝大会も競技であることを考えれば、競技の公平性という点から見て問題があると思われます。

次に、大会参加チーム数の減少に歯止めをかけ、より参加しやすい大会にするための、参加資格の変更などの大会運営上の工夫が論議されました。中学生の部男子や連合の部の成人女子区間の区間距離の短縮、連合の部の女子ランナーとして中学生を認める、小学生の部の新設、といった意見が出されたので、これらの意思を参考に次回の参加者が増えるよう工夫したいものです。

なお、体指大会役員については、朝方の設営の際には点呼を取ることに及び午後は流れ解散にせず本部に戻って全員で撤収作業を行なってから解散すべきだという指摘がありましたので、これらも次回に向け検討してまいりたいと思います。

らに見られ微笑ましく思いました。スポーツの原点は楽しさとも言われます。港北マラソンは、そんな大会に思えました。

(新吉田地区 内田達)



地区活動紹介コーナー

港北区体指協の活動は、13の地区を基盤として行われています。このコーナーでは、各地区の活動を紹介していきます。

〈高田地区〉

港北区の北西部に位置する高田町は、その面積の3分の1が農業地域に指定されている為、丘陵地帯には緑豊かな自然が残されています。その恵まれた自然を楽しみながらウォーキングやジョギングで汗を流す人も多く見られます。又、学校等の施設を利用してグループでスポーツを楽しむ人たちもいます。そんな高田の体育指導委員10名はもちろんスポーツが大好きな気の良い仲間たちです。地域の方がスポーツを通して健康で楽しく暮らすことができるように活動を続けています。

それでは高田の活動の様子をご紹介します。

- 5月 第18回ゲートボール大会（東山田スポーツ会館）
町内会、老人会の協力により参加者も多く年令を感じさせない若々しいプレーに拍手。
- 6月 第4回ソフトバレー大会（高田中学校）
さわやかスポーツの普及活動により愛好者も増え、13グループの参加があり熱戦が繰り広げられました。毎週金曜日、高田小学校の体育館で練習しています。
- 7月 第6回男女混合バレーボール大会（高田中学校）
暑さと熱気で体育館の中はサウナ状態、さすが日頃鍛えているママさんバレーのお母さんたちは余裕の涼しい顔、母は強し！
- 9月 第15回ソフトボール大会（高田中学校）
小中学校の各PTAチームも大健闘、先生やお父

さんに声援を送る子どもたちの顔も輝いていました。

- 10月 第25回健民祭（高田小学校）
高田町連合町内会最大のイベント、秋の一日を家族で参加できる楽しい運動会です。
- 11月 第13回グラウンドゴルフ大会（高田小学校）
和気あいあいの雰囲気の中、13チームの皆さんが楽しく競技をすることができました。

この他にも、港北駅伝には2チームの選手が出場、又、ベタンクも頑張っって区の大会に参加しました。これからも地域の人と一っしょにスポーツの輪を広げていきたいと思ひます。

（永井靖子）



▲今年の港北駅伝大会にて

〈地区体指協活動紹介を終えて〉

平成8年の創刊以来続いてきた各地区での活動の紹介も、今回の高田地区をもって一巡し、連載終了の運びとなります。体育指導委員が地域に根付いたスポーツ活動を推進する立場にあることを考えてみても、区の体指協の活動もまた基本は地元での活動にあると言っても過言ではないでしょう。その意味で、今後のそれぞれの地区での活動を行なう上で、他の地区の状況を参照することもまた有意義なことであったかと思ひられます。そこで、連載終了を機会に各地区の報告から見られた傾向をここにまとめてみたいと思ひます。

1 ニュースポーツの人気

区及び市の体指協でも推進しているニュースポーツについては、各地区とも熱心に取り組んでいる。高齢者などにも親しみやすいため、いずれの地区でも好評を博しており、地区の大会も行われている。

2 地区ごとに人気種目は異なる

近年の体指の活動の中心であるニュースポーツにも、地区により普及しているものとしていないものがある。全体として人気があるのはグラウンドゴルフ、ソフトバレー、インディアカ、ベタンクなどがあるが、余り普及していない地区もある。その意味では区体指協で研修会を開くなどして体指の資質向上と区内へのなお

一層の普及に務める必要がある。その他に、主として年少者向けの活動の結果、ユニホックやキックベースが普及している地区もある。

3 休日と平日夜に活動

地区での大会を休日に開催し、日常の指導は平日の夜間に行なうケースが多い。活動場所はともに小学校の校庭や体育館が多い。

4 中高年層の多さと若年層の少なさ

基本的には中高年向きのニュースポーツが体指活動の中心であることに加えて中高年層の健康指向の強さの故か、地区での大会・教室の参加者の大半を中高年層が占め、盛況である。一方、若年層の参加が少なく、特に10代後半から20代の参加は非常に少ない。

5 女性体指の偏在

区全体で見ても女性体指は2割程度に過ぎないが、女性体指のいない地区が4あり、2人以上いるのは6地区に過ぎない。女性の社会進出が盛んな昨今の時の流れから見ても、もう少し多い方がよいと思ひられる。地元における積極的な人材発掘と育成が望まれる。

多忙の合間を縫い、地域に密着し地元住民の健康増進と交流を図る各地区体指協の奮闘ぶりに、編集委員一同も頭の下がる思いがいたしました。

市体指大会に参加して

平成10年度横浜市体育指導委員大会が、48日ぶりに降った寒い雨の1月24日、関内ホールにて盛大に開催されました。一部と二部に分れて例年通り、一部では、10年・15年・20年・25年の永年の振興発展に尽力したという表彰式で276名が感謝状と記念品を頂きました。また、(社)全国体育指導委員連合から11名が表彰を受賞したことについて伝達式が有り、大変喜ばしく思いました。

10分間のインターバル後、「これからの生涯スポーツのあり方」という題で上智大学の師岡文男先生による講演が1時間30分にわたって行なわれました。スポーツをする事について、時間、場所、予算、ルール等々、もっと

くふうをして頭を働かせて行いなさいとのお話でした。私達が行事に参加し地区での行事に協力をしている事は先生のお話はもっともな事では有りますが、ギャップも非常に大きいと考えられます。地区の方々全員とは申しませんが我々の活動がボランティアで有ると理解している人がどのくらいいるのでしょうか。

「仕方がないから参加してやるか」とか、「たのまれたから参加するか」等々と考える方々も多いようですが、行事が終了した後「楽しかった」「この次も必ず参加させて」等必ずその様な声が聞こえてきます。ああ声をかけて良かったと喜を感じる次第です。

最後に、文化は自ら担うところに意義が有るという事を少しでも多くの方々に、広めて参りたいと思います。
(樽町地区 大島啓一)

国際プールでの県体指大会

2月7日、県の大会が横浜国際プールメインアリーナにて開催され、日吉地区は私を含め3名が参加いたしました。

式次第の流れにそって様々な表彰等がありましたが、残念なことに港北区の該当者が1人もいないことにチョッピリ複雑な気持ちでした。

そのあと西田善夫先生の「スポーツと指導者」としての講演があり、その内容は豊富で「野球選手のプロとアマの差」「夏の高校野球大会での監督と選手との意思の

疎通の大切さ」等で、「自分でしなくてはいけない仕事をキチンとやれる指導者が望ましい」ということでした。

また、長野オリンピック男子ジャンプ団体戦で金メダルをとるまでの出来事や選手同士の仲間への思いやりをよく理解し最大限の力を発揮させるよう導いていくことも忘れてはならない大切なこと等先生の話に引きこまれて感銘いたしました。

選手の努力もさることながら、指導者も大変な仕事だということを実感し、我ながら意義のある講演に参加できた喜びが一段とこみあげてきた一日でありました。
(日吉地区 田中初江)

第21期終了にあたって

オリンピック招致に始まった体指21期(9年4月~11年3月)はオーバーに言えば、歴史の1シーンとの出会いでもありました。

今この2年間を振り返るとき、通常の事業計画にそっての活動だけであれば普通の任期で終わっていたかも知れませんが、かながわゆめ国体・ゆめ大会が開かれ事前からの関連行事に、忙しい時間を割いたのが印象に残っています。

国体開催に因んで“港北区国体支援の会”が諸団体の協力のもとで設立され、その会議も回を重ねました。

県、市、区とその炬火リレーや沿道整備などの体指の協力もさることながら、港北区は、メイン会場となる国際競技場をひかえており、国体開催の成果が期待されるだけに官民一体となつての対応に熱が入りました。

体指の年間行事の中にも、国体をアピールする冠大会もベタंकをはじめいろいろ事業に付けられて、国体成功への意気込みを感じられました。

国体も成功裡に幕が閉じたとき、それは体指にとってこれからの指針とすると共に、体指本来の地域活動への励みとして一人一人が心の糧として留めて置きたいものです。

21世紀を目前に、スポーツの世界がどう変わって行くかは体指にも責任の一端があるにしても、生涯スポーツの成果が“生涯現役”の健康づくりに、プロスポーツを夢見る前に明るく健康的な生活環境の創造こそこれからの体指に課せられた使命でもあると思います。

それが健常者のみではなく、障害を持つ人たちにとっても……

横浜市では「2002年のワールドカップの決勝戦を横浜



▲国際競技場での国体炬火リレー

で]のスローガンを掲げて、その誘致に本腰を入れています。単にサッカーのみならず、先日の市体指大会に於いて講演された上智大学の師岡先生も携わっておられる、オリンピックに無い競技種目の大会【ワールドゲームズ】(2001年に第6回大会が秋田県で開催予定)なども周知されることで過熱化しているオリンピック誘致に少しでも警鐘となればと思うのは早とちりででしょうか……

第21期も無事に終わろうとしておりますが、今後とも港北区指の皆さんの益々のご活躍をご祈念申し上げます。
(港北区体育指導委員連絡協議会 会長 伊藤暢博)

編集後記

今年度が終われば【活き生き体指】ももうすぐ創刊から3周年を迎えます。原稿や写真をお寄せいただく体指を始めとする地区の皆さんに支えられてこそこの3年間でした。今後とも地域の方々に育てていただければ幸いです。感謝しております。